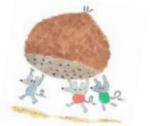
令和６年度１０月園だより



段原みみょう保育園

「自分で考え、判断できる子に」

ようやく朝晩少しずつ涼しくなり、夕方になると「りーんりーん」や「コロコロコロ」など秋を感じさせる虫の声が聞こえてきています。比治山という自然あふれる環境が側にあるからこそ、より四季折々の変化を感じることができる毎日。段原みみょう保育園の魅力ですね。子どもたちとともに秋へと移り変わる変化も楽しんで参りたいと思います。

さて、今、１歳児うさぎ組さんは、「自分で」と何でも自分でやりたい気持ちが溢れています。例えば、階段を昇るのも、大人の手を振りはらい“自分でできる”と表現したり、着脱も、試行錯誤しながら、時間をかけてでも自分で着ようとしたり…。側にいる大人にとっては、「危ないから手をつながせてほしいな。」や「うまくいってないから着せてあげたいな」と思う瞬間ですが、この子どもたちが、やりたいと感じた時に“自分でできるタイミング”が、自立心を育くむチャンスなのです。こうした乳児期の、自分でやりたい時期や２歳頃の「いやいや」という自我の芽生えの時期に、側にいる大人がどのように関わっていくかで子どもたちの意欲が大きく変わっていきます。子どもが危なかっしかったり、もどかしそうな場面になると、つい大人が先回りしてやってしまいたくなりますが、それは、子どもが自分で考え行動する機会を奪ってしまうことにつながります。うまくいかないのは当たり前で、そこで試行錯誤し、自分で考え、繰り返しチャレンジしていく過程がとても大切なのです。子どもたちの気持ちを尊重しつつ、ぐっと我慢して一緒に見守っていきましょう。

先日、年長児すみれ組が保護者の方と離れて１泊２日でお泊り保育に行きました。これは、「自分のことは何でも自分でできる」と自信をもった子どもたちが、お泊り保育に参加することで、さらに自信をつけていくという目的があります。身支度の準備、食事の片付けなど、いつもなら保護者に頼っていることも、すべて自分たちで行っていました。そこには、お友だちがいるからこそチャレンジしてみたり、話を聞いて自ら考え行動に移したり、友だちと一緒に考えたり…。日頃からの様々な経験の中で育まれてきた力を発揮し、小さなチャレンジがいっぱいでした。帰る時には、“やればできる”とどの子も自信に溢れている表情に、子どもの持っている力の凄さを感じました。このたくましく育った力は、年長になるから自然と表れてくる力ではありません。冒頭にもお話ししたように、赤ちゃんの時から自分でやりたい気持ちを発揮し、様々なことに挑戦し、失敗や成功を繰り返すことで育まれていくのです。そして、この力がこれから子どもたちが社会を切り開くための大きな力の土台になります。だからこそ、今向き合う子どもたちが表現している「やりたい」や「自分で」を一つひとつ大切にしっかりと受け止めていきましょう。

最後に、子どもたちが元気にお泊り保育を終えられたことそして、お泊り保育を楽しく過ごせるように保護者の方が後押ししてくださったことに感謝申し上げます。また、今小さいクラスの保護者の方にとっては、まだ先のお話ですが、我が子の年長になった姿を思いながら、今のお子さんの育ちを共に楽しみ、喜んで参りましょう。

園　長　岩槻　由紀